

平成20年度第2回血液事業部会運営委員会議事要旨(案)

日時: 平成20年7月15日(火) 14:55~17:25

場所: 弘済会館 菊、梅(西)

出席者: 高松委員長、

大平、岡田、高橋、花井、山口各委員

(事務局)

新村血液対策課長、林血液対策企画官、秋野課長補佐他

(採血事業者)

日本赤十字社血液事業本部 田所経営会議委員、嶋本経営会議委員、

日野副本部長、碓井惨事

- 議 題: 1. 議事要旨の確認
2. 感染症定期報告について
3. 血液製剤に関する報告事項について
4. 日本赤十字社からの報告事項について
5. その他

(審議概要)

議題1について

議事要旨に関する意見等については、事務局まで連絡することとされた。

議題2について

感染症定期報告について、事務局から説明後、質疑応答がなされた。

議題3について

事務局及び日赤から、供血者からの遡及調査の進捗状況、血液製剤に関する報告事項、献血件数及びHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数について事務局から説明後、下記のような意見が出された。

- 輸血用製剤にてB型肝炎ウイルス感染が疑われた死亡症例に対し、高感度NATまたはシングルNATにより検出可能かとの質問に対し日赤より、ウイルス量が感度以下であれば検出は不可能であるが、感染する場合がある。
欧米のようにHBc抗体陽性の感染既往歴のあるドナーを全て排除するという方法もあるが、既往感染者の率が高い日本では2~3割の献血血液を排除するこ

とになるため、安定供給の面から現実的ではないとの回答があった。

- 2008年上半期の献血者におけるHIV陽性件数が一段と増加傾向にある。陽性件数が最も多い大阪府においては、保健所等でのHIV抗体検査における陽性率は逆に低下しており、ハイリスクな人が検査にアクセス出来ていない可能性がある。検査体制の整備、改善について大阪府へ通知を出したとのことであるが、引き続き大阪府に対して指導を行うとともに、今後も関係部署全てに対し、一層の努力をお願いしたい。

議題4について

日赤から、1年間の取り組みについて報告がなされた後、質疑応答がなされた。

議題5について

事務局から、議題その他としてフィブリノゲン製剤及び血液凝固因子製剤に関する広報等について報告された。

以上